

サロ

あべの

NO 77

出合い ふれあい 助け合い

# 歯と健康管理

サロン・あべの十月の出会い

十月十七日(土)午後一時から、育徳コミュニティセンター



二階研修室において、大阪府立身体障害者福祉センター付属病院歯科部長の西田百代氏をお迎えし、「歯と健康管理」というテーマで、実際に治療中の歯の写真などを、スライドを使いながら見せていただき、歯にまつわる色々なお話をしていただきました。その一部をここにまとめてみようと思う。

人間の歯の数は、乳歯で二十本、大人の歯である永久歯で、三十二から三十四本である。歯科医師会では、八十歳で自分の歯を二十本残そうという「8020運動」を展開している。

## 虫歯

虫歯の原因は、歯に砂糖などの甘い物が粘着し、そこで繁殖する細菌が出す酸によって歯のエナメル質が溶かされることによる。

歯(エナメル質)は人間の体の組織の中でも特に硬く、水晶と同じ硬さがある。しかし、酸に弱く、しかも骨や爪と違い再生ができないため、一度悪くなると、もう元どおりにはならない。

予防としては、細菌の増殖を

防ぐために、食後すぐに歯を磨き細菌の栄養供給源を絶つことである。さらに、食べ物の量や食べる回数を減らし、甘いもの、歯にくっついたり、挟まりやすいものをあまり食べないことである。また、遺伝的に虫歯になりにくい歯と、なりやすい歯があるといわれるが、生まれる前の胎児期の栄養バランスが乳歯に影響を与えており、幼児期

(乳歯)は永久歯への影響が大きい。つまり、大人になってからではもう遅く、ひたすら予防を心掛けるだけである。しかし、それだけに胎児期や乳児期の子供の歯については、親が注意を

はらう必要がある。

だ液には殺菌効果があり、人間が起きている間には、多量に分泌されており、虫歯の予防にもなっている。しかし、睡眠中には分泌量が減ってしまうため、

虫歯が得意やすい。したがって、夜寝る前にこそていねいに磨く

のが、効果的な歯磨きである。歯磨きは、その回数やそれにか

ける時間よりも、実際にどれだけきれいに磨けているかが重要

である。磨いた後、舌の先で歯の裏側などに磨き残しがないか

確認するとよい。また、ブラシは硬くて腰のあるものがよく、

ブラシの部分の長さはその人の指二本分くらい。ブラシの先が

開いたり、丸くなってしまったり汚れがうまく落とせなくなるの

で、二、三週間に一度の割で取り替えたほうがよい。値段に関

係なく、よく磨ける、自分に合った歯ブラシを見付け、ダース

その他

単位で買い置きしておくとうい

歯が原因で様々な病気を引き起こすことがあるので、歯の管

理や治療はとて大切である。肩が凝ると歯が痛くなると言わ

れるが、歯が悪くて肩が凝っている場合もある。

虫歯のないきれいな歯であっても、年をとると歯槽膿漏にな

る人が多い。まず歯石をためないこと。進行してしまつと、虫

歯よりも治療が難しい。一見歯がきれいなものだから、それが

逆に落とし穴になるケースがある。

歯磨きと介護

家庭にいる子供達よりも、施設や病院にいる子供達の方が、

食事やおやつ時間も量も決まっているので、虫歯の予防とい

う点では良い。ところが、歯を磨くという行為が、施設や病院

ではまだ介護の対象として認識されていないようである。大事

な歯磨きが障害児・者にも徹底されるよう、介護する立場の人に、ぜひ認識してほしいことである。

春風デイナリーコンサート

最後に、先生が実際に治療されている光景から始まる、デイナリーコンサートのビデオを見せていただいた。

健常者でさえ歯の治療は苦手だという人が多いと思うが、先生の病院の歯科では、患者にリ

ラックスしてもらつたため、その人自身に好きな音楽を選んでもら

らい、それを聴きながら治療が受けられるようになっていた。

体でリズムをとつたり、歌ったりしながら、治療を受ける姿に

思わずほほえんでしまった。また、患者さんと親とが共に楽しめる

コンサートを四年前から企画、夏休みファミリーコンサート

トやデイナリーコンサートとして開催されている。ビデオでは、

千里に新しくできたオオサカサンパレスでの「春風デイナリー

コンサート」の様子が紹介されていた。セルフ社によるプログラ

ムの印刷から、当日のリフトバ

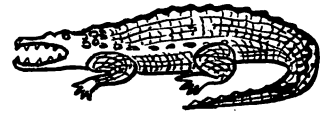
スなどでの送迎、ボランティアの活躍、参加者との交流、和やかな食事風景、プロのアーティスト達による楽しい音楽会が繰り上げられていた。(ビデオコンクールで特別賞を受賞した作品である。)

ぼくも含めて、この日の参加者は三十二名、全員が家に帰ってから自分の歯ブラシを点検したのではないだろうか?

司会は、山本篤江。まとめ、上平幸雄。



## 歯と健康



歯を大切に

中野 君江

秋の色深く、皆様方とのふれ合いを楽しみに会場へと急ぐ。

一時前、講師先生がおつきになり、今日勉強に必要なスライド機の電源コードがみつからないハプニングがありました。先生は平然としたお顔。それなら黒板を使ってお話ししますとおしゃったのに感激。少しおくれたが、お話が始まった。

小柄な先生なのに熱のこもった話方に全員ひき込まれ聞き入った。

黒板に「八〇二〇」と書かれ、何の数字かしらと思ったら、先生から「見渡したところ、今日出席の皆さん方にはおそいです

が、これは八十才で自分の歯がまだ二十本元気で使えるよう」と言う事ですと説明があった。乳幼児から心掛けて、毎日の手入れ歯磨きの大切さのお話を本当にわかり易く説明して下さい。

そう言えば私の幼い頃、父が中年頃より入れ歯生活に入り、食事にもままならぬ辛さから、娘には眠る時は必ず歯を磨く様、口やかましく、丁寧に磨かないと叱られた。年頃になっても「顔を磨くより、歯を磨け」と何度も言われたもの。

その時は何といやな親と思っただけれど、五十頃迄まあ良い歯をしていた事を感謝しています。

会の中程でやっとコードが見つかり、早速映して下さり、もう一度復習のつもりでスライドを見た。

虫歯の大敵は砂糖、缶ジュースや甘いものを寝る前には絶対に食べないでござい。

そう言えば二歳になる孫も、甘いものは三時だけしかもらえないそうで、初め可愛そうな事と思っていたけれど、いゝ躰だと思っている。私もこゝ二、三年前より、奥歯が虫くい、段々大きく穴になり年を重ねて行くうち、とうとう下二本二本ブリッジ

入れ歯になりましたが、何と言っても噛み心地が悪い。

三度の食事をおいしくいただくためにも一日も長く歯を大切に使いたいものと思っています。

わたしの歯のあれこれ

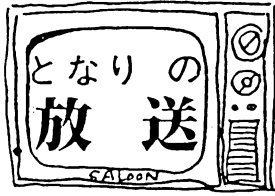
関 幸子

冨田さんからいつもお手紙をいただき。こゝ「サロン・あべの」に寄せていたけど、もと寮生さんや患者さん、お隣りの訓練校生さんだった方にお会いする。

西田先生のお話をお聴きしたくて、土曜の午後あいにくの文化祭の準備、電気工事と殺虫剤散布、あくる日曜は数時間の停電日になっていて気が抜けない。で一時間前まで行けるかどうか決まっていたらしく。

地下鉄の駅を降りて、迷って駆けつけるが遅刻。

西田先生は「お昼ご飯の後、歯を磨いた人は？」とおっしゃったけれど、わたしは昼食もまだで、ずっとこんなめっちゃくちゃな生活を続けている。秋の夜長コーヒーをい



H・Tスペシャル

コンサートライブ '92

★♪★♪★♪★♪

わたくしたちと一緒に楽しい

ひとときを過ごしませんか!?

.....

MEMBER

坪田由美子

(Vocal)

滝ヶ平弘美

(Piano&Percussion)

芳井武志

(Guitar&Bass)

川本一男

(Keyboard)

福本 淳

(Drums&Bass&Piano)

とき 12月13日(日)

昼1:02START

場所 びいどろほおる

[地下鉄御堂筋線江坂駅

下車⑥号出口徒歩5分

SH江坂ビル3F]

チケット 1000円

問い合わせ先

滝ヶ平 ☎06-326-2850

福本 ☎0721-25-6627

れて、本を読む。そのまゝ机の上に眠りこむなんぞ。三食後、歯を磨けるケアが当り前にならなくてはと、あらためてわたしの歯のことを考えさせられた。

物ごころついたら、巷にはもうチョコレートや甘党の店もなかった戦時下、九人兄弟の末っ子で生れたわたしは、罹災のどさくさで、歯ブラシもままならなかったのかどうか、ついで「歯を磨きなさい」と教えられた記憶がない。放任といえば商家の忙しさの余りの甘やかしだった。永久歯に生え変わる頃の栄養状態が悪かったのか、体質なのか、先生のお話だと磨き過ぎということもあるらしいが、わたしの歯はみるま

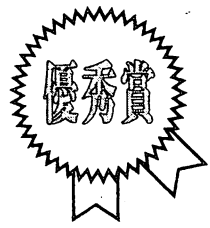
にC.C。冠せ、差し、橋、悪戦苦闘のくりかえし。歯医者さんに慣れるという訳にはいかず、緊張で情緒まで弱く出来ているらしいわたしで、開放されるや、くたくたになってしまふ。それが嫌でついついのばして若くして、あと数本を残す義歯になった。学校時代、白い歯が羨ましかったが自業自得。もともとから、食物を飲み込むのが手で、顔面のマヒで歯を食い縛るから、右の内耳まで痛み、人相までがかわっている。食事が味気ない。話せない。三〇品目といわれている今、ミキサージュユーザーでこなしている。

西田先生の診療室から来られるお客様に

小さな歯ブラシ、歯間ブラシ、糸揚杖、うがいのための洗浄びんなどをお渡ししながら、その横にはガムや缶ジュースの自動販売機が所狭しと置かれていて、わたしは何やら複雑きわまりない気がしている。

西田先生は、ときどき「忙しい!？」とゆったりとしたご様子で来て下さる。

お仕事で疲れていらしても、一度も不愉快なお顔はなさらさない。会話もてきぱき、実に爽やかだ。患者さんに向かわられる姿勢が、患者さんからの信頼となっているゆえんであろう。



福祉広報コンクールに入賞

ついに優秀賞を獲得!!

大阪府社会福祉協議会の「第二十回福祉広報コンクール」において、『サロン・あべの』紙がついに優秀賞をいただきました。

このコンクールには毎年挑戦を続け、五年連続して優良賞を受けるなど、すっかり入賞紙誌の常連となっていました。毎月欠かさずに発行していることや、民間のボランティア団体であることが評価されていたと思います。今年はその五年連続入賞というのが、特に評価されたのではないのでしょうか。

上位に入賞しているのは、最優秀賞に「堺の福祉」（堺市社会福祉協議会）。優秀賞には

「こころの窓」（言語指導療育センター）、「ボランティア情報さかい」（堺市社会福祉協議会）、「ひらかた社協だより」

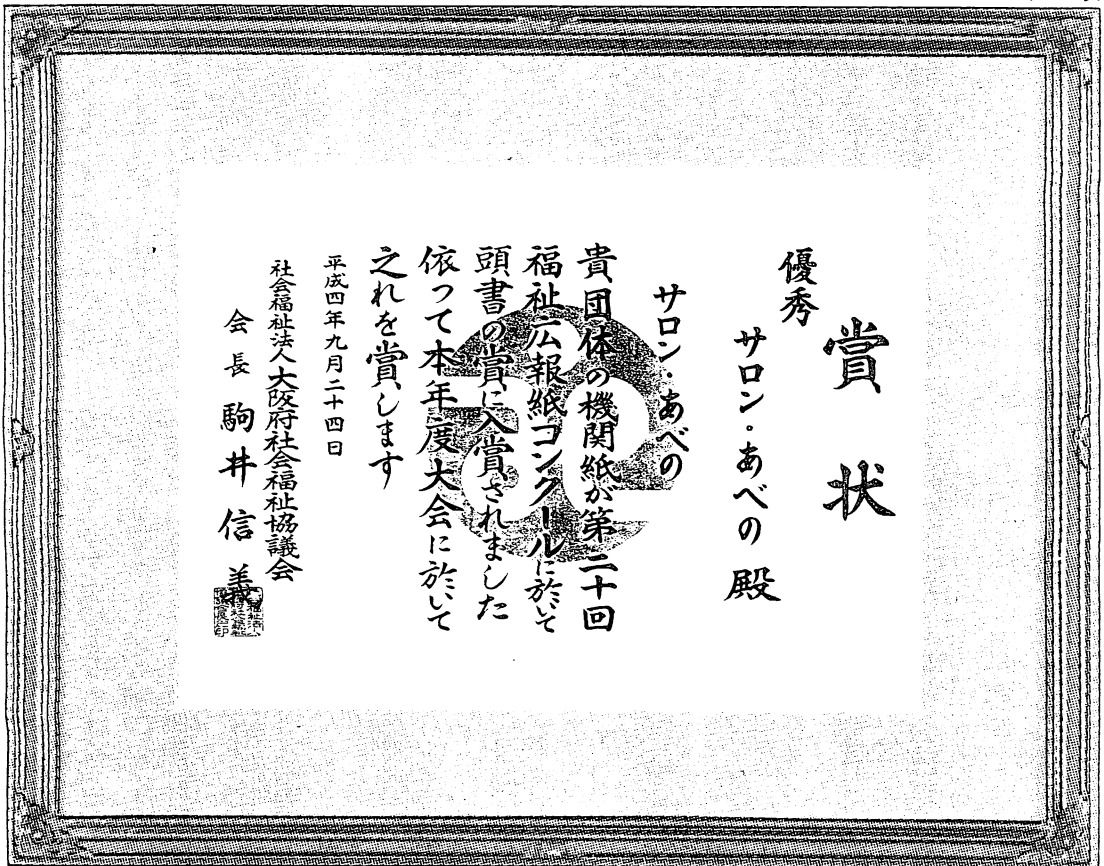
（枚方市社会福祉協議会）、

「いちの福祉『かけ橋』」（堺市・市校区福祉委員会）、「千種」（おおとり福祉会朗友館）

「センターだより」（西成労働福祉センター）、そして、「サロン・あべの」の計七紙。その他、優良賞に十三紙、佳作十一紙、部門賞に六紙が入賞しています。

やっと思いいただいた優秀賞ですが、来年以降もさらに入賞を続けていくため、読者のみなさんからもどんどん投稿をしていただき、「サロン・あべの」紙をより充実したものにしていきたいと思っております。

（この部分の文章は上記の段落と重複する内容を含みます）



# 優秀賞状

サロン・あべの 殿

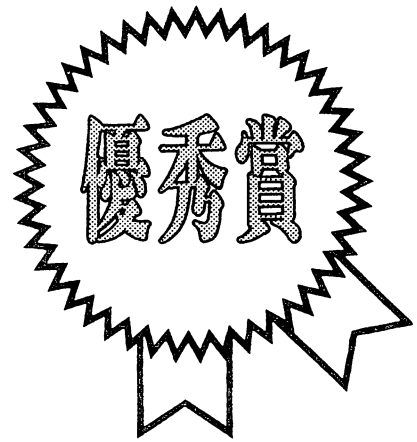
サロン・あべの

貴団体の機関紙が第二十回福祉広報紙コンクールに於て頭書の賞に入賞されました。依つて本年度大会に於て之れを賞します。

平成四年九月二十四日

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会

会長 駒井信義



優秀賞受賞の報を伝え聞いて

田中 美智子

広報紙コンクール優秀賞受賞おめでとう  
ございます。創刊号から愛読させていただ  
いていきます。が、もう七年になるんですね。  
正直云って、私の「サロン・あべの」へ  
の評価は、受賞前も、今も全く変わって  
いません。というのも、元々、優秀と喝采を  
送っていたんですから……。

別段その根拠を大仰に分析していた訳で  
はないんですが、今、その根拠について思  
いを返しています。

翌月には詳細に伝えて下さり、特に、参加  
者の平易な言葉による感想文は、企画の良  
さと相まって、感動が生に伝わって来ます。

岡さんの秀れたエッセイを通して、岸田  
さんなどグループ活動からの、又、南光さ  
んたち個人からなどの、障害者の自立生活  
などへの問題提起は、当事者の目を通して  
いることもあって、更に説得力が加わって  
います。

「一般の人に広く知らせる」という広報  
の意味を考える時、「サロン・あべの」の  
理念や目的が、押しつけではなく、広く一  
般の人々に浸透して行っていることのすば  
らしさを、七年のご努力とを重ね合わせて  
感じています。

優秀賞受賞おめでとう

松本 孝

「サロン・あべの」紙の愛読者の一人と  
して、僭越ながら誇りにおもいます。

私は読み無精で、一冊の本をすみからす  
みまで読み遂げることはあまりなく、七、  
八割ほど読んで、自分なりに辻褄があえば

よしとしている。この頃、新聞までがそう  
で、年齢と俱に顕著になってきた。

私のはしょって読む癖を知っている妻が、  
新聞の記事を話題にしてよくはなしかけて  
くれ、へえそんなことがあるのかと、改め  
て読み直すこともたびたびある。時には、  
読んでもいないのに読んだふりをして一緒  
に憤慨し、あとでこっそり読むと云うなさ  
けないこともやる。けれどもこの「サロン  
・あべの」紙はちがう。われながら不思議  
にいつもじっくりと読んでいる。

私にとって、そのような習慣がきちんと  
ついた、唯一の印刷物である。

大切に想うこと

木村 圭子

秋も深まってまいりました。

先日は、サロン紙七六号をありがとうございました。  
ございました。

さて、このたびは、広報紙コンクールで  
優秀賞を受賞されたと、もれ伺いました。  
おめでとう ございます。

いつも、サロン紙を拝見させてもらいますと、皆さんにお会いしている気持ちになります。今も拝見しながら、役割の木を伸ばす、一人では生きていけない。助け合いの必要をあらためて痛感しました。

今後は、人との出会いを大切に大切にしていこうと反省しています。

大島様が亡くなられたことを知りました。胸が痛みます。色々と勉強になるお話をして下さいましたことを大切に、これからの人生にプラスになる様がんばります。

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

「優秀賞」であたりまえ  
石田 律

「優秀賞」受賞の報は入院中に聞きました。この知らせといっしょにシツカリ原稿の依頼もされました。

六月の大阪ワークセンター・大阪障害者職業訓練校見学会。七月のフルートとギターの午後。八月のあべのカーニバル「さろん亭」。九月の地域福祉を創る。これら四

回のハサロン・あべのVの出会いには入院で出られませんでした。けれど病床に本紙が届けられ、じっくり読ませてもらっていましたので、参加していないという実感は全然ありません。それくらい毎月の出会いの記事は臨場感があります。そして、例会関連の寄稿記事でのフォローは心憎いばかりのものです。加えて連載物の執筆陣も抜群。なかでも最近はじめたコラム「おもしろい 姉ちゃん」の田淵美登利さんにお会いしたいものです。

この数ヶ月、創る人から読む人になって（紙上だけで参加するようになって）ハサロン・あべのV紙は優秀であることを改めて知りました。それに、病院にまで原稿を依頼してくるガツチリしたスタッフがいるんですから「優秀賞」もあたりまえだわな。



考える勉強を

前田 奈緒

私は中学生ぐらいから、ずっと保母（人に関わる仕事）をしたいと思いますのですが、高校に入って進路を決定する際に、同じ二年間勉強するならば、もっと幅広く勉強しようと思ひ、社会福祉科を選択しました。

現在、福祉を勉強し始めて半年たちますが、この半年間で感じた事は、昔と今の日本を比較してみると、今の日本の方が福祉に対する理解者が少なく、逆に偏見者が多くなっているんじゃないかという事です。その事は即ち、現代人の心が狭く冷たくなっているといえるかも知れないと思うのです。まだまだ、私には解らない事が沢山ありますが、聞いて書くだけの勉強ではなくて「考える勉強」を沢山して、とりあえず、来春の初めての實習に挑みたいと思っています。

スポーツ賞を受賞しました

山村貴司

平成四年九月二六日、体育功労者や国際大会、全国規模のスポーツ大会の成績優秀者を称える平成四年度「スポーツ大賞」の表彰式が森ノ宮の大阪市立労働会館ピロテ

イーホールでそれぞれに贈られました。総受賞者数は二七一人・九二団体で、今年

は四年に一度のオリンピックがあり、バルセロナ五輪でメダルを獲得した大阪出身の選手達、また、バルセロナで開かれた身障者のオリンピック、パラリンピックに出場し、見事にメダルを獲得した選手などたくさん

の有名人が会場に来ていました。僕の受賞したのは、優秀選手賞で去年の石川県で開催された第二七回全国身体障害者スポーツ大会で水泳競技で優勝したのが選ばれたもので、初めての受賞でした。

僕がスポーツを始めたのはリハビリや機

能回復のためにやり始めたもので、最初から大会に出場するためではなかったのです

今年もやりました体操フェスティバル

中西利香

私がやっているダンスのチームを紹介します。名前はOSCDフィットネスと言って、大阪市長居にある身体障害者スポーツセンターで週に一度のエアロビックスのダンスの練習をしています。

今年も大阪府立体育会館にて、「体操フェスティバル」OSAKA国際大会第十回記念」の集いが、とっても賑やかに開催されました。今年は三部構成され、第一部は「体操の花園」と題して、子供からお年

が、水泳をやり続けているうちに、一生に一度の身障者国体に出てみたいと思うようになりました。

スポーツの感動は、競技に全力を尽くすことによる爽やかさと競技後のお互いの健闘を称え合い、いろいろな人達と交流し、友情を深めることができることだと思えます。これからもスポーツを心と身体のために続けていこうと思います。

寄りまで世代を越えてリズム体操を演技してくれました。第二部は「多彩な花」と題して、五カ国の海外の方々と全国各地の体操のチームが参加されました。海外からはデンマーク、エストニア、フィンランド、スウェーデン、オランダの選手が参加され、デンマークのチームは、十一歳から二十一歳までの女子チームで、リズムカルなアクロバット体操を紹介してくれました。エストニアのチームは、体操学校の学生で構成さ



れ、新体操を紹介してくれました。フィンランドのチームは、女子体操協会の方々ととても優雅で美しいリズム体操を紹介してくれました。スウェーデンのチームは、体操好きの夫婦で構成されて、いろいろな健康リズム体操を紹介してくれました。オランダのチームは、ジャズダンスの女子グループで、テンポの早いリズム体操を紹介してくれました。

第三部は「お祭り広場」と題して、チームが一緒に同じ音楽で、日頃の練習を競い合いました。私のチームも日頃の練習の成果を十分に発揮出来たと思います。

今回は日本の体操フェスティバルというよりも、世界のお祭りだと私は思いました。とっても素晴らしく、どのチームの演技を見ても一年間の練習成果をフルに出している、ただただ感動するばかりでした。

私も来年に向けて「ガンバロウ！」皆さんも、どうですか？やってみませんか！

「ナンペイのひとこと&ふたこと」は今月お休みです。

## 美智子のこんな話



岸田 美智子

### 施設長の権限について

二四時間、障害者が生活する療護施設では、この一般社会からは理解できない生活習慣というか生活感覚があり、それが障害者のプライバシーを侵したりしていることが多いと思います。

このサロン紙でも時々書かせてもらっているのですが、異性介護の問題がまだまだ多くあります。

先日もいろいろな施設の障害者の方から、中の施設生活についていろいろお聞きするために座談会をしました。その時にお聞きした話ではお風呂などはまだまだ異性介護が実状で、例えば女性障害者の場合、浴室で頭を洗うのは男性職員であり、体を洗う

のは女性職員だそうです。そして、ある施設の園長さん(男性)は、わざわざ女性障害者の浴室に入ってきて「やあ、〇〇ちゃん」と声をかけるそうです。この施設は開放的で、私達外出サービスの活動も大変喜んで下さり、協力的な施設なのです。そんな施設の園長でさえ、こんな行動をとっておられるそうです。この園長は入所者の障害者のことを自分の子供と思っ、大変意欲的に取り組んでおられますし、家族的な雰囲気でもやっというとしておられることはよく判るんです。こういう行動は家庭の中でも娘のお風呂をのぞいたりするお父さんはいるかもしれませんが、成人した娘からは、怒られたりするはず。同じ家族の中でもこのようなことから、そうではない成人施設の中でこういう行動が許されるはずはないと思うのです。家庭的な雰囲気は施設を目指すべきでしょうが、その中で障害者一人一人が、一人の社会人としてきちりプライバシーを守られてこそ、その施設が本当に家庭的なよい施設だといえるのだと思います。

皆さんはどう思われますか？

おもしろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

だんじり囃子にのって

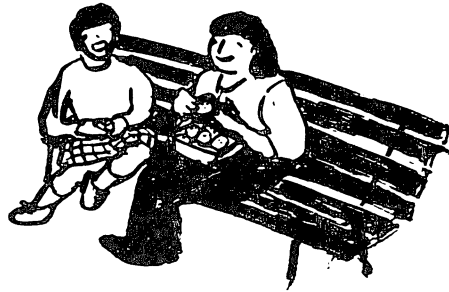
突然暑い日がふっと訪れたりするものの、季節はすっかり秋に染まってきました。

我がこんごう寮の秋は、センター祭あり、一泊旅行ありで、職員は忙しく、寮生さんには楽しみな季節です。

そんな中、十月八日に地域のお祭りに参加させていただき、だんじりの綱を曳いてきました。そのうえ、だんじりの太鼓を、お囃子つきでたかせてもらいうサービスまでついたものだから、全員大喜び。

その中でも目を引いたのが若い男性Aさん。日頃は、ソフトボールでも、声をかけないと参加してくれない彼が、先頭で綱を曳き、太鼓をたたく時はうれしそうなお表情で上手にリズムをとっているのです。

「こんなに喜んでもらえて良かった」と地域の方にも喜んでいただき、楽しい秋の一時を過ごしてきました。



おもしろい姉ちゃんのプロフィール

おもしろい姉ちゃんの「プロフィール」への依頼ですが何を書いてよいものやら…特に性格面では、寮生さんと職員に囲まれて生活するうちに、新たな発見が多くて、自分で自分を短い言葉で表現出来ませんので困ってしまいました。

温暖な和歌山の海辺の町で、年の離れた末っ子でO型が生まれたら、こんなだろうなという、いかげんで、朗らかな性格。大阪府立大学の社会福祉学部で落語を学んだ(という噂)後、身体障害者更生相談所で半年アルバイト。

平成三年十一月より、府立砂川厚生福祉センターにある精神薄弱者更生施設こんごう寮に配属される。

毎日、したこともない陶芸指導と、生活指導を落研で鍛えられた弁舌と笑顔で、失敗を重ねながら行っています。

書きはしたものの、「どんなん？」という疑問は私も持っていますので、会って見て頂かないだろくなど考え、十一月二日に来るだけ時間をとってサロン・あべのに行かせて頂くうと思っっています。その時はよろしくお願いします。

## 声をきく勇氣

子どものときは、まわりの人からいくらでも言葉を返してもらえ。小さい声でボソボソと言っていると「もう少し大きな声でいわないと聞こえないよ」と言ってもらえ、ひとりでもワイワイと騒いでいると「ほら、人の話も聞かないとダメだよ」と教えてもらえる。オトナになると、そうはいかない。

まだあどけなさが顔に残る青年だったら希望はあるが、笑っても眉間に皺が残るような中年になってしまえば、もう誰も注意してくれない。そうなれば、誰も聞いていないのにベラベラと一人話していても止めてくれる人は誰もいない。自分がその場を立ち去ったあと、ああ、やっと静かになりましたねと顔を見合わせて苦笑する知人たちの姿を想像することもできなくなる。

私は大学に勤める教員であるが、教員の職業病の一つとして、誰かれ見さかいなしに相手を見つけては「講義」をしてしまうことがある。自分の話を

相手が聞かなければ相手が悪い、と決めつけることができるのは、教員とか警官とか医師とかという少数の職業人だけだろう。商売人であれば、客が話を聞いてくれなければ悪いのは自分なのである。

警官とか医師であれば話を聞かない相手を脅したり恐がらしたりして沈黙させるのだろうか、教員はどのような力をもたないのが普通である。したがって、机の上につぶしてイビキをかいている人間を前にして、とうとうと一時間以上も話さなければならぬ。これを八年も続けていけば、もう相手がいっつこうに話を聞いていなくても、平気でしゃべり続けることができるようになる。

こうなると講義というものは教壇上の「独りごと」と同じである。信じがたいことだが、眠りながら講義をした人もいる。眠っていて話せるのかと思うが、本人は何を話したのかまったく記憶がないという。

私も、まったく別のこと（たとえば今晚なにを食べようかとか）を考えながら、講義をした（できた）という驚くべき経験をしたことがある（もちろん現在勤務している大学での話ではない）。そのときの私の話は支離滅裂であつたにちがいないし、眠りながら講義をした教授もデタラメを話したにちがいないのである。

それでも問題がなかったというのは明らかに誰も聞いていなかったということである。残念なことだが、大学によつては考えられることである。あるいは支離滅裂なことを話していても、誰も言葉を返してくれなかったということだろう。伝えても仕方がないと諦められているのである。

これではいけないと最近、思いはじめ、学生たちの感想を聞いてみるようにしている。すると、出てくる出てくる、聞くのが辛くなるほどつぎつぎと出てくる。見られている、聞かれているということが、これほど辛く思えることはない。

なぜ辛いかというと、うまく話せたと聞いてもらえたという、こちら側の勝手な幻想が打ちくだかれるのであ

おしらせ

12月の出会い

日時 12月5日(土)午後1~4時

内容 「とびきりHOTに過ごす

HAPPY X'mas!

\*クイズ・音楽・etc.

場所 育徳園3階幸分ホール

[大阪市阿倍野区阪南町5-12-5

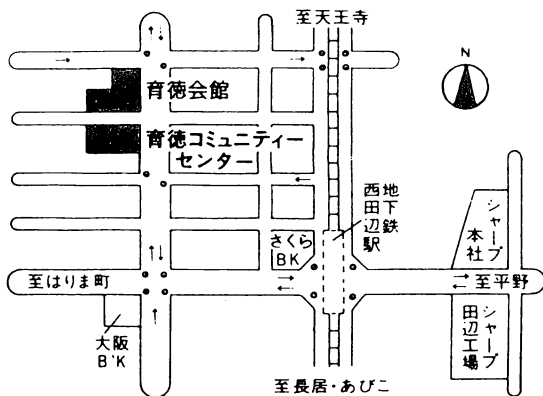
スロープ有り]

会費 1500円(ドリンク・おやつ代含)

申込み締切り 11月30日(土)

問合わせと申込み先

TEL. 06-691-1028 (富田慶子)



る。妙なことだが、十人に聞いて九人が良かったといってくれても、悪かったと言う一人のことが気になってしま

う。完璧に良いとか、すべての人に評  
価されるとかというものはありえない  
ことなのに、否定的な感想を返してき  
た少数の人の意見に、ずいぶんと傷つ  
けられる。  
しかし、否定的な感想でも面と向っ  
て言ってくれる人にはかえって親近感  
をもつようになる。アンケートをとっ  
ても、自分の名前を明らかにして、私  
を批判しているような文章には励まされ  
ないのだという希望が読みとれるか

らだ。  
自分自身についての幻想を打ち砕い  
てくれる声を聞くことは、たいへん心  
に辛い痛いこともあるが、より現実的  
になるためには必要なことだ。子ども  
のときはオトナになるための言葉が、  
あちらから与えられていた。オトナに  
なつてしまえば、より成熟するためには、  
こちらから声を求め、聞いていく  
勇氣をもたなければならぬ。そうし  
ないと完全に諦められてしまうのであ  
る。

(知)



## ふれ愛

上平 幸雄

### 空の旅 ④

日付変更線を通して、アメリカ合衆国のロサンゼルス国際空港に到着したのが、八月二十五日の午前九時。入国手続きを済ませた後、今度は午後一時のUS航空で、サンフランシスコへと向かいます。その間かなり時間があつたので、空港内の売店や、ハンバーガーショップに入ってみることにしました。

日本からは10ドル単位のお札とクレジットカードしか持って行きませんでしたので、お金をくたくつもりで、みやげものなどを売っているお店に入りました。カリフォルニア州の旗と同じ熊の絵のステッカーと、大きくUSAと書かれたステッカーを買いました。このステッカーは今も、ぼくの二台の車椅子に、それぞれ貼ってあります。レジでは少し緊張しましたが、何とか通過しました。その次に入ったのが、ハンバーガーショップです。また機内でも軽い食事

が出ると聞いていたのですが、本場アメリカのハンバーガーを食べてみたくなつたのです。ところが、たかがハンバーガーと思つたのが間違ひの元。相手の言っていることがよく分からないのに、いいかげんに返事をしていると、ただでさえ分厚い本場のハンバーガーの横に、サラダやポテトがどっさり盛られてしまいました。お金も初めに思っていたよりも、ずいぶん高いものになりました。でも、とってもおいしい、ハンバーガーでした。

約一時間の空の旅ののち、サンフランシスコに着いたのが、午後二時。今度はバスに乗って約四十分、最初の宿泊地である、バークレーの「バークレーマリーナマリオート」ホテルに向かいます。

かなりきつい陽射し。蒸し暑かつた日本と違い、少し涼しいくらいの気候。バークレーに向かってフリーウェイを走るバス。そのすぐ横を走り抜ける真っ赤なオープンカー。やっとアメリカに来たんだという思いが、少しずつついてきます。

ホテルに着くとすぐに、明日からの予定やホテルでの注意事項など、ミーティングがあり、少し早い夕食となりました。



「バークレーマリーナマリオート」は、派手さこそないものの、すぐ前にはヨットハーバーがあり、テラスや室内プールの設備のある、リゾート型の落ち着いたホテルです。夕食後は、歩いてすぐの海岸へ散歩や遊歩道があり、犬を連れ散歩するカップルも多くいました。海岸からはサンフランシスコ湾越しに、ゴールデンゲートブリッジやベイブリッジの灯が浮かび、とても美しい景色でした。さっきまでの夕焼けが闇に変わり、アメリカでの第一日目が終わりました。

## Volunteer Center

17

### 九 ボランティアセンターの機能(各論)

#### ⑨ ボランティア連絡会への援助

ボランティア連絡会はボランティアグループどうしが集まってつくった連絡組織のことである。ボランティアセンター(VC)とそれぞれボランティアグループとのつながりとは別に、グループどうしの横のつながりとして、グループの主體的な能力を高め、ボランティア活動の輪を広げていく上で、重要な役割を果たすものである。

連絡会の機能は、ボランティアグループどうしの情報交換や交流・親睦を図ると

もに、共同の学習・研修やイベントの共催など、個々のグループでは難しいことを効果的に実施できることがまずはあげられるが、交流や共同の取り組みを通してお互いに刺激し、意識を高めていくことも重要な機能である。日常的な活動の中では見えなかったものが、他の活動をしている人たちと接することによってわかることも多いことであろう。

また、いまのところあまりできていないが、同種の活動をしているグループの連絡を図ることによって、グループ間でニーズの需給調整を行い、活動の継続性を高めていくこともできるだろう。

さらに、連絡会はボランティア活動をしている人の連帯によって、活動を通じて感じているさまざまな問題を共有し、さらに大きな声にしていく場にもなる。ボランティアアクションをすすめていく上でも重要な役割を担っているのである。

地域での保健・医療・福祉などのネットワークの重要性が強調される中で、関係団体のひとつとしてボランティア連絡会の参加が求められることも増えている。活動者の目からの的確な意見や、協力した取り組みが求められているといえよう。こうした

動きは、市民参加をすすめるという観点から不可欠なものである。しかし、一方ではボランティアが単にサービスの担い手としてのみ位置づけられたり、公的機関とのつながりの拡大によって行政や社協の「おおかえ」的な組織になる可能性ももっていることは意識しておく必要がある。

ボランティア連絡会ではボランティアの自主性を高めていくということに大きな意味があるのだから、運営は活動者の主體的な意思を最大限に尊重したものでなければならぬ。したがって、VCが行う援助においても、連絡会づくりの場面では積極的な働きかけが必要であるが、運営面では側面的な援助が中心となる。

原田 仁



私の宝

金子花江

前々から「サロン・あべの」の皆様にも是非聞いていただけたらと考えておりましたテープのことを書かせて頂きます。

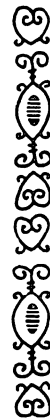
それは、三年前にNHK第2放送「障害者の時間」で放送されました『私の手記』という三十分番組です。

この手記者である松下さんは、体の骨が溶けて失くなるという私達には想像もつかない難病に十七才で患いました。この病気は世界中で十人、日本では松下さんただ一人です。自分の病気を骨喰い太郎と名付けて、精神力で克服すると意気を込めておられます。左腕は、すでに肩から人工関節を入れておられ、発病から三十年もの闘病生活中に右腕も切断。病状も進んでこられてます。

私がこの松下さんに非常な感銘をうけておりますのは、生きるという意欲のとてもすばらしいこと。三十年も住みなれた東京の親元を離れて、関西で自活をされたこと。そうした中で「飛翔」という個人通信誌を発行され、恩人・知人・障害のある人にも

配って勇気づけていられること。

私は、宝のように、このテープを聞いております。皆様も一度、お耳を傾けて下さいませんか。



「私の手記」録音テープ

この度、金子花江さんからNHKラジオ第2放送の「心身障害者と共に」の時間帯に放送（一九八九年）されたリ私の手記に取り上げられた二編が収録された録音テープが届けられました。

A面には京都在住のマツシタカズトシ氏の手記とお話で、「骨喰い太郎」と題されて体の骨が溶けていく病気と闘いながら自立生活をされていく様子が語られている。

B面では東京在住のカツヤマツノリ氏の手記とお話で、「それでも、私は幸せ」と題して筋萎縮症との進行と闘いながらも、色々な事に挑戦し、前向きに生きていと語られている。

お二人とも進行性の病気のため、ともすれば将来に対する不安が大きくなる中で、ご自分に敵しく、社会に甘えることなく知識を深め、行動を起す強い精神力を持って

ご自分の生活を創ってこられた話が納められていました。(T)

このテープをぜひ聞きたいとお思の方は、富田までご連絡ください。

(〇六―六九二―一〇二八)

編集部

いわさきちひろ  
 カレンダー '93のご案内  
 どもんこ共同保育所では今年も、いわさきちひろの  
 カレンダーを1,200円で販売しています。ちひろ  
 ファンの方はぜひどもんこ共同保育所(昭和町1丁目  
 2-5今西マンション1階 ☎621-4711)へ。

井 感謝します 井

カンパ・冊子・お菓子・テレホンカード  
切手等ありがとうございます。  
お礼を申し上げます。

十月のカンパ 金二〇、五〇〇円

- 大塚一枝、岡 賀寿子、金子花江、
  - 木口久子、木村圭子、黒羽玲子、
  - 近藤千枝子、富田万里子、中野君江、
  - 南光龍平、西田百代、山本篤江、
- 匿名四名。(敬称略)

